

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

客観式20個(選択式14個, 記述式6個), 論述式17題(1行×3, 2行×12, 3行×2, 計33行)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

客観式の解答数は1個増加して20個となったものの, 論述問題の数は昨年度の17題, 行数も33行と分量に変化はない。内容的には, 受験生が初めて見るような資料をもとにした書きにくい論述問題も含まれるが, 頻出のテーマが多く, 全体の難易度は昨年度と大きな変化はない。

出題の特徴や昨年との変更点

伝統的な農牧業と食文化, エネルギー資源と日本の資源確保, 地域別の自然環境, 人口大国の人口動態, 都市の立地や都市問題, 交通の特徴と問題など, これまでの東大本試で問われた内容が切り口を変えて出題されている設問もあり, 過去問の学習が必要である。第1問図1-4のように見慣れない資料が多用される傾向にあるが, 普段学習していることと関係づけることで解答を導きたい。さまざまな地図と地理情報を扱った主題図が近年多用される傾向にあるが, 本年度は乳糖耐性者の割合の分布図が出題された。

2年続けて出題されていた地形図を用いる問題はなかった。日本に関する問題は, 例年に比べ少なかった。

その他トピックス

第2問設問Bの発展途上国の人口動態については, 直前講習第1講第2問で扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	選択 記述式 論述	世界の食料資源と エネルギー資源	設問Aは, 各地域の伝統的な農牧業を乳糖耐性に結びつけてまとめることが求められるが, 書くべき内容の割に指定行数が多い。設問B(4)は, 日本の天然ガスの輸入がLNGであること, 天然ガス生産量が近隣のアジア太平洋地域で増加していることを指摘できたかで差がついたと思われる。	やや難
第2問	選択 記述式 論述	世界の地勢と 人口の変化	設問Bの表2-1(人口1億人以上の14か国)は, 小問に関わる国は素早く特定したい。設問A(1)の深海底が将来の世界の経済に与える大きな影響, 設問B(2)のイ国(ナイジェリア)の社会状況の推移は書きにくい。	標準
第3問	記述式 論述	都市	設問A(5)は, 内陸水運への影響以外のことも指摘できたかで差がつくだろう。設問B(2)はロサンゼルスが自動車交通の発達によって拡大した大都市であることに言及したい。比較的書きやすい論述問題が多く, 高得点を目指したい。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 客観式問題での得点が合否にかかわるため, 教科書や共通テスト(センター試験)の過去問などで基本的知識を習得しておきたい。
- 指定語句を使ったり, 資料から判読できることをもとにコンパクトにまとめることが求められているので, 60字程度の短い論述演習を繰り返しておこう。総字数も多く, 限られた時間で論述する力を身につけておきたい。
- 受験生が初めて見るような資料も多く, 統計を解釈し, 示された統計のもつ意味を理解する学習が求められる。
- 日本の変化に関する問題が頻出であり, 「高度経済成長期」, 「石油危機」, 「円高」, 「バブル崩壊」, 「都心回帰現象」, 「知識経済化・情報社会化」など, 時代を理解するキーワードをもとにそれぞれの時期の特徴を理解しておきたい。
- 日本に関しては, 具体的な地域についての知識よりは, 大都市圏と地方圏, 大都市圏内の都心と郊外, 地方圏における中心都市など, 機能からみた地域の特徴を把握しておきたい。
- 地形については, 地形図だけでなく, 標高分布図や地形区分図などの図が出題されることも予想される。典型的な地形の地形図から具体的な地形がイメージできるようにするとともに, 新旧地形図の比較も練習しておこう。